

# リハビリテーションセンター 診療日

曜日	月	火	水	木	金
担当医師	松本	松本	吉田	藤原	吉田

## ご利用方法

**診療受付** ・診療には、かかりつけ医等の紹介状が必要です。  
・原則として予約制です。

**連絡先** 成人病センター地域医療サービス室  
TEL077-582-9711 FAX077-582-9712  
又は、リハビリテーションセンター支援部門  
TEL077-582-9710 FAX077-582-5724  
各病院・医院からの診療予約にかかる受付は、8:30から17:00までとなります。時間外にFAX送信された場合は、翌朝の受付となります。

## ホームページの紹介

滋賀県立リハビリテーションセンターの地図や案内図が掲載されています！  
研修会の情報や案内などは随時更新していますので、ご注目ください！

<http://www.pref.shiga.jp/e/rehabili/>

**診療日** 毎週月曜日から金曜日  
(年末年始、祝日を除きます)

**受付時間** 8:30から11:00まで

**診療開始** 9:00から

**費用** 医療費の被保険者負担が必要です。

## 情報誌名の紹介

情報誌の名前は当センターの職員内で募集し、投票を行い決定しました。

この『和み(なごみ)』という言葉は、当センターの「キーワード」です。

母なる湖である琵琶湖から命の力を。  
リハビリテーションの心を通して生活に和みを。  
という、願いを込めて情報誌にこの名前をつけました。皆様が社会や地域で和やかな生活を送れるよう、お手伝いしていきたいと考えています。

## 編集後記

6月にリハビリテーションセンターが開所し、早2ヶ月が経とうとしています。このたび、伝えたい情報をわかりやすく書く、ということの難しさは直面しながらも、やっと情報誌「和み(なごみ)」を発行することができました。

今後、当センターとともに、皆さんに親しくしてもらえ、読んでいただけるような誌面づくりに頑張っていきたいと思っております。

ご意見ご感想お待ちしております。

(理学療法士：大巧)



## 滋賀県立リハビリテーションセンター情報誌



創刊号 2006.7

発行:滋賀県立リハビリテーションセンター  
〒524-8524 守山市守山5丁目4-30  
(成人病センター内)  
TEL:077-582-8157 FAX:077-582-5726  
HP:<http://www.pref.shiga.jp/e/rehabili/>



平成18年6月3日

## 滋賀県立リハビリテーションセンターが開所しました！

### 滋賀県立リハビリテーションセンター設置の精神

生けるいのちへの尊敬  
一人一人のこころへの共感  
人々の共生への願い

その心を通して人と社会に「和」がもたらされる

## 開所式 に 思う



平成18年6月3日(土)午後、成人病センター研究所講堂にて滋賀県立リハビリテーションセンター開所式を開催しました。当日は、県内外の関係機関・団体から約100名の方に出席いただきました。来賓の方々からは当センターに対する期待の言葉を多くいただき、新たな気持ちで地域の皆様に愛されるセンターを目指して行きたいと思えました。

引き続き開催しました開設記念講演では、リハビリテーションにおいて先駆的な取り組みをしている、熊本県の熊本機能病院米満弘之総院長より講演があり、職員一同、身の引き締まる思いを新たに致しました。

(作業療法士：宮本)

## ご挨拶

所長 藤原 誠

「いのち」いきいきと、「こころ」よろこびに満ちて、いつまでも、はつらつとしていたいものです。自分の「生きざま」や、人との「ふれあい」の面から見ても、自分らしく、人間らしく、はつらつと人生を送りたいものです。

疾患や外傷、あるいは高齢化などによって、「〇〇らしくありたい」という思いの上にハンディキャップが生じますが、それは体の動き、生活活動能力、コミュニケーションや摂食・嚥下、こころの動き、物事を遂行するための脳の働き(高次脳機能)など多くの面に及びます。これを軽減させる手だてが提供できるようにと、県立リハビリテーションセンターが設置されました。当センターには上記各領域への対応にそれぞれの専門職、生活への応用・支援に看護職、また、総合的に見つめるリハビリテーション専門医が配置されて、チーム医療が提供されます。一方、それぞれのライフステージを住み慣れた土地で有意義に過ごしていただけるように、地域リハビリテーションを支援する部門が備わっています。

皆様のはつらつ人生を応援していきます。今後の展開にご期待下さい。



## 僕は福祉用具?いやいや ユニバーサルデザイン なんだよ!

ユニバーサルデザインとは?  
年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、すべての人が利用可能なように、常に良いものに改良していくという考え方です。



### 名前 福祉用椅子

普通の椅子に見えますがいろいろな高さがあるチャームポイントで、いろいろな体格の人に合わせて選ぶことができます。

短めの肘掛で机上での作業がしやすく、車椅子などへの乗り移りがしやすくなっています。座面が広いので、椅子上で正座やあくらもできちゃいます。左右に杖置きもついているよ。

どこにいます? 診察室や相談室。療法室や病室にいます。ぜひ座ってみてね!



# はじめてのリハビリテーションセンターです

## 医療部 診察

診察部門では、疾患により身体機能障害が生じ、その結果、日常生活・社会生活に何らかの不自由を持った方に対してリハビリテーション医療を提供しています。

対象は主に脳神経疾患、整形外科疾患などが原因の運動障害が主となりますが、言語障害、記憶などの高次脳機能障害なども含まれます。

初診時には、外来でリハビリテーション医師の診察により障害の評価を行い、治療の適応について判断します。その後、その障害の治療に適した評価・治療（理学療法、作業療法、言語療法、心理療法）を処方します。

外来診療は月から金曜日まで、毎日午前中（受付は9時から11時まで）行い、脳卒中等の疾患発症後二ヶ月以内であれば入院による治療の相談も受け付けています。

（医師：松本）



診察の様子

## 医療部 療法

療法部門は県立成人病センターのリハビリテーション室を改修・増築し、理学療法士10名、作業療法士9名、言語聴覚士4名、臨床心理士1名のスタッフをそろえ、リハビリテーションセンター医療部として再スタートしました。

本年4月の診療報酬改正に基づいた疾患別リハビリテーションにおける脳血管障害（I）、運動器（I）の施設基準を満たしています。

従来から行っている脳血管障害や整形疾患の急性期のリハビリテーションだけでなく、それらの疾患の回復期、あるいは高次脳機能障害や脊髄損傷といったより総合的、専門的サービスが必要とされる疾患の回復期から在宅、職業復帰をめざした医学的リハビリテーションに取り組んでいます。

（作業療法士：小西）



療法室の様子

## 医療部 看護

回復期リハビリテーション病棟は、滋賀県立成人病センター西館7階・8階に位置しています。

7階は病棟として機能しており、病室は40床（現在20床で運用中）を設け、リフト式浴室・ブラットホーム式トイレ・床走行式リフト・固定式リフト・患者さん用に福祉いすなどを整備しています。病棟内でのリハビリテーションをはじめ、ADL（日常生活動作）自立のための看護指導やご家族への介護指導を行っています。

8階は在宅復帰のため、ワンルームマンションをイメージした在宅復帰室を設けています。環境制御装置・キッチン・洗面台・押入れ・ベッド・固定式リフトを整備し、自宅での生活シミュレーションを行い在宅復帰支援を行っています。また、7階の病棟のリフト式浴室のみでは、充実した清潔援助ができないため、8階にシャワールームや特殊浴室を設けています。

7階・8階は眺望もよく、夏は湖南地域で行われる花火大会が一望でき、皆さんに大変喜ばれています。

（看護師：高田）



在宅復帰室

## 支援部 相談支援

相談支援担当では、リハビリテーションセンター医療部の利用や退院後の生活に関する相談をお受けしています。また、障害のある方々がより円滑な地域生活をしていただくための相談についても、関係機関や施設と連携しながら進めていきたいと考えています。

いろいろな制度上の制約によって、患者さんのご希望通りに医療のリハビリテーションを受けていただけない場合もありますが、そのような場合でも介護保険など利用可能なサービスにスムーズに繋げていくことを心掛けています。

また、様々な障害のある方々との交流会やピア・カウンセリングなども開催する予定をしています。

（相談員：山田）

### 支援部のドアを入ると……

カウンター近くに座っている相談支援担当のソーシャルワーカーが声をかけてくれます。今は電話での相談業務が多いようですが、相談室での相談対応もしています。熱心に患者さんの話を聴いて対応していました。

現在の相談内容として多いのは、初回の診察や入院に関することです。

今後、退院に向けての相談や地域サービスの調整も増えると思われます。



相談の様子

## 支援部 事業推進

事業推進担当は、理学療法士4名、作業療法士3名の計7名の職員で、県内7つの各エリアに担当を配置し、地域リハビリテーション推進や一貫性のある総合的なリハビリテーション体系の確立に取り組んでいます。関係機関・施設・団体などとの協働により、教育・研究、情報の収集・伝達、交流などの面から各種事業を行っています。

また、障害のある方やご家族だけでなく関係者・一般住民の方に対しても、生活や社会活動の為に、適切なサービスやリハビリテーションが必要であることを理解していただけるよう、啓発活動を行います。

様々な活動により、地域リハビリテーション活動の活性化を目指しています。

（理学療法士：林）

### 支援部の部屋を見渡すと……

相談支援担当の隣に席を並べているのが事業推進担当です。

スタッフは県内7つの保健所や4つの地域リハビリテーション広域支援センターへ出向き、地域リハビリテーション推進事業に積極的に関わっています。そのため、各地域で出会う機会が多いと思われます。

現在、予定している事業は以下のとおりですが、検討中の事業も多くあるようです。県内各地域でどんどん実施されるようです、注目したいと思います。

### 『9月の事業予定』

日程・場所	内容
H18年9月2日（土） 13:30～16:00 高島地域地場産業振興センター 多目的ホール	県民参画事業（湖西圏域） 「今が幸せ ～人とのつながりを楽しむ～」 講師：山本玄匠 氏



連絡協議会の様子

## 診察室では……

東館一階北入り口に入って左側にリハビリテーションセンターの看板があります。待合室はゆったりとしたベンチが用意され、静かで落ち着いた空間になっていました。診察室は3室あり、うち1室は検査を中心に使われ、診察はもう1室で行われていました。

予約制で、患者さん一人ひとりの身体や生活についての相談にも、ゆっくりと丁寧な対応が印象的でした。



受付

## 療法室に入ると……

マットやベッド、機器がずらっと並んでおり、奥の部屋へ進むと明るく増築された部屋がありました。他にもいくつかの小さな部屋があり、それぞれの部屋で多くの方が自立に向けたプログラムに取り組んでいました。部屋の片隅には生活動作の練習用に畳の部屋や台所、お風呂やトイレが設置されており、これらの機器も職員とともにフル稼働でした。空調の効いた部屋でも汗をぬぐいながら練習する姿がありました。

他にも滋賀県で初めて導入された機器もあり、これからの展開が楽しみです。



ナースステーション



病室からの風景